

育児中の母親の心理（衝動的感情と育児不安）と夫との関係に関する研究

村 松 十 和¹

Abstract

A study was conducted to clarify how the relationship with the husband influenced the mentality of the mother in child-rearing – to be specific, impulsive feelings and child-rearing anxiety – and how it could prevent the mother's impulsive behaviors. The study further discussed the role of the husband in supporting her. A survey was taken from 504 mothers with children aged between three and five years, we used the following tools, which were created by the author; “impulsive feelings”, “impulsive behaviors”, “emotional support”, “instrumental support”, and reconstructed “child-rearing anxiety”. Mother's impulsive feelings aroused while teaching discipline, the results showed, neither have any correlations with the relationship with her husband nor accumulate as child-rearing anxiety.

Results:

The impulsive feelings triggered by “children acting on their own” can be reduced slightly by conversations with her husband, The impulsive feelings triggered by “children's behaviors contradicting parents' wishes” can be reduced slightly by the husband's emotional support, however, they accumulate as mother's child-rearing anxiety. Meanwhile, it suppresses impulsive feelings only slightly and induces impulsive behaviors. Mother's child-rearing anxiety had been suppressed good relationship with her husband. however, circulates as child rearing stress, and it influenced Mother's impulsive feelings aroused while teaching discipline. The above, it is assumed that the mother can remain calm slightly during child-rearing when she has a good relationship with her husband.

Therefore, the roles of the husband in supporting the mother in child-rearing are to have close communication with her, share the difficulties that she experiences in child-rearing, empathize with her, and provide her with help in child-care and household duties so that she can be relieved from the strain of child-rearing.

Key Words: impulsive feelings, impulsive behaviors, child-rearing anxiety, relationship with the Husband

I. 緒 言

わが国では、性別役割分業規範が根強い。育児を母親の役割だと認識する母親は、夫の協力が高いのは自分の育児行動が不十分なためだと考え、育児行動に自信が持てず、育児不安を高めている¹⁾。また幼児を育てている母親が、欲求不満や葛藤、焦燥感を持つと、社会から取り残されるという疎外感（空虚感や圧迫拘束感）や孤独感に襲われるという²⁾。

育児中の母親は、マイペースな子どもや親の意に反する子どもに対して衝動的感情を抱くと、その感情は抑圧されず母親の衝動的行動を生む素地として、他方では育児不安として心に蓄積し、育児ストレスの一形態として心の中を循環している可能性がある³⁾。

母親の心理状態を表す「育児不安」を、日常生活ストレスや育児に関係して生じた不安や悩みが累積したものと捉えたと³⁾、育児不安には夫婦関係の調和⁴⁾ -⁶⁾が関係してくると思われる。夫婦関係の調和は、

1 三重大学医学部看護学科

親ストレスを低くしても子ストレスや子どもへの愛着性には関係ないので⁷⁾、育児不安を軽減しない可能性がある。しかし、良好な夫との関係^{4) - 6)}や家族以外の人々からのソーシャル・サポート⁵⁾は、育児不安を軽減する。また、母親の家庭外活動の充実感は母親を支えるため⁷⁾、母親が子育てを肯定的に捉えていなくても子育てに対する否定的意識を強めない⁸⁾ので、育児不安を軽減する。このように育児不安の軽減は、育児不安^{1) 4) - 6) 9)}や夫との関係^{4) - 6)}の捉え方の問題や母親の心理状態(夫の支援の受容¹⁾、親・子ストレス、子どもへの愛着⁴⁾)に左右され、統一した見解がえられていない。

児童虐待の頻度が多い現代にあっては、同一次元で夫との関係が育児中の母親の心理にどう影響して、母親の衝動的行動を阻止できるか明らかにする必要がある。

そこで本研究は、母親が夫の情緒的サポート、道具的サポートをどう認知し評価しているか測定できる尺度を作成し、夫との関係が、(情緒的・道具的サポート、母親の社会的交流回数、会話時間)育児中の母親の心理(衝動的感情と育児不安³⁾)にどう影響して、母親の衝動的行動を阻止できるか明らかにし、母親を支える夫の役割について考えることを目的とする。

II. 用語定義

育児不安³⁾: 日常の生活ストレスや育児に関係して生じた不安や悩みが累積したもの。

衝動的感情³⁾: 育児不安を高めた母親が、育児場面の子どもの言動などによって瞬時に惹き起こされる激しい苛立ちの感情。

衝動的行動³⁾: 育児場面の子どもの言動などから激しい苛立ちの感情を持った母親が、衝動的なあまり感情統制が困難になり瞬時に子どもにとってしまうネガティブな育児行動。

情緒的サポート: 育児中の妻を支える夫の情緒面からなり、それを妻がどう認知し、評価しているかを表したもの。

道具的サポート: 育児中の妻を支える夫の育児や家事に関する内容からなり、それを妻がどう認知し評価しているかを表したもの。

III. 本研究の構成モデルと構成概念間の因果モデル

育児ストレスがあれば、衝動的感情が生じやすく、この感情が蓄積すれば、母親は育児行動に自信が持てず、育児不安を高める可能性がある³⁾。育児不安には

夫婦関係の調和、親・子ストレスや子どもへの愛着性が関係しているので、衝動的感情は循環して育児ストレスになると考える。このような状態におかれれば母親は育児への自信を喪失することになり、児への忌避感や苛立ちを増し¹⁰⁾、この衝動的感情や育児不安の結果を抑えられず衝動的行動を誘発してしまう³⁾可能性がある。しかし、そこに良好な夫との関係があれば、母親の心にゆとりが生まれる可能性があるので、衝動的行動の表出は幾分阻止される可能性がある。これらの関係を表した構成モデルは、図1のようになる。さらに、この構成モデルに基づき構成概念間の関係をパス図に表すと図2のようになる。つまり、母親の社会的交流には夫の理解度の高さ^{4) 5)}と夫との仲の良さ⁴⁾、連帯感⁶⁾、親密度⁵⁾、夫の道具的サポートといった夫婦関係の調和が必要となる。このような夫婦関係の調和によって母親は、育児不安や親ストレスの緩和ができる⁷⁾。しかし、夫婦関係の調和は、子ストレスや子どもへの愛着性には関係しないので⁷⁾、母親は育児場面の子どもによって喚起された衝動的感情を抑圧できない可能性がある。このため母親は、背後に夫との良好な関係があっても育児場面の子どもに衝動的行動をとってしまうと考える。

IV. 研究方法

1. 研究の対象

保育園・幼稚園に通う3～5歳の園児を持つ母親504人

2. 調査期間

調査期間は、平成13年5月～9月上旬

3. 測定用具

1) 育児不安³⁾ (表1)

再構成した牧野の育児不安尺度は、I-T相関の結果、内部整合性が確認されている。選択肢は、(全くない1

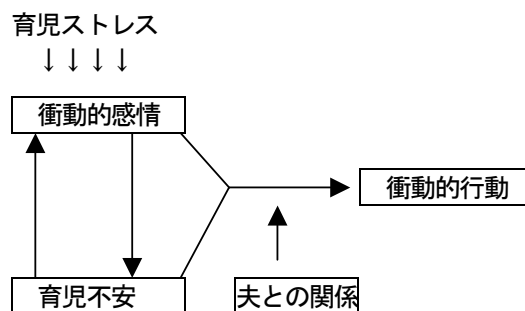


図1 「夫との関係によって影響される育児中の母親の心理状態」と衝動的行動の構成モデル

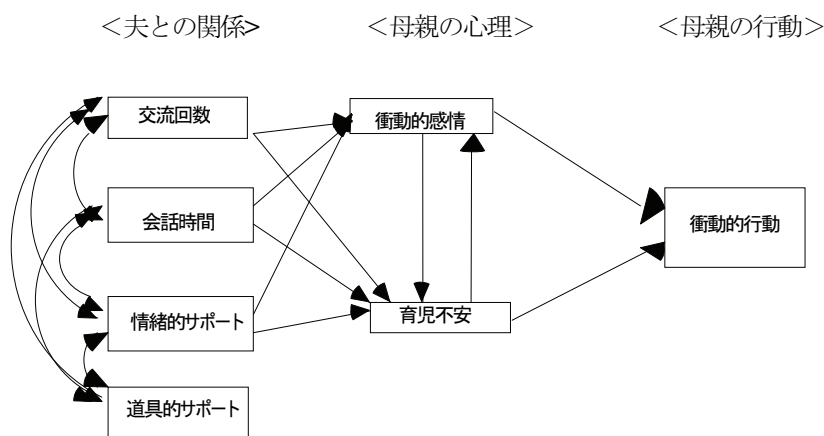


図2 「夫との関係によって影響される育児中の母親の心理状態」と衝動的行動の因果モデル

表1 育児不安の項目

I-T 相関分析: α 係数 = .742

		# : 逆転項目
1.	毎日がぐたぐたに疲れる	
# 2.	朝、目ざめがさわやかである	
3.	考えごとがおっくうでいやになる	
# 4.	生活の中にゆとりを感じる	
5.	子どもがわずらわしくて、イライラしてしまう	
# 6.	自分は子どもをうまく育てていると思う	
7.	子どものことで、どうしたらよいかわからなくなることがある	
# 8.	子どもは結構一人で育っていくものだと思う	
9.	自分ひとりで子どもを育てているのだという圧迫感を感じてしまう	
# 10.	育児によって自分が成長していると感じられる	
11.	毎日毎日、同じことの繰り返ししかしていないと思う	
12.	子どもを育てる為にはがまんばかりしていると思う	

点～よくある4点)の4段階評定で回答を求めた。

2) 衝動的な感情³⁾ (表2)

母親の衝動的な感情を喚起する場面は、「しつけ」「マイペースの子」「親の意に反する行動」の3因子構造からなり内部整合性が確認されている。選択肢は、(あまり気にならない1点～非常にイライラする4点)の4段階評定で回答を求めた。

3) 衝動的な行動³⁾ (表3).

母親の衝動的な行動を誘発する場面は、I-T 相関の結果、内部整合性が確認されている。選択肢は、なだめる・言い聞かせる1点、怖い表情をする2点、強い口調で叱る3点、身体の一部を揺する・押さえる4点、たたく5点の5段階評定で回答を求めた。

4) 道具的サポート (表4)

尺度項目の収集は、大日向ら¹¹⁾の家事関連項目を参考に子ども関連11項目とそれを除く家事など関連11

項目を収集し、やらない1点～よくやる4点の4段階評定で回答を求めた。収集項目の分析では、分布の偏りがないため項目の弁別力はあると判断し、因子分析(主因子法、バリマックス回転)の結果、2因子が得られ、因子負荷量が.4に満たない3項目を削除し、残る19項目を解釈した。第1因子は子ども領域を表す10項目がまとまり、「子ども領域」と命名した。第2因子は家事領域を表す9項目がまとまり、「家事領域」と命名した。尺度の信頼性を表す α 係数は、第1因子.846、第2因子.843で内的整合性が認められ、当初の予想通り子ども領域と家事領域が分離され、尺度は2因子構造であることが確認された。

5) 情緒的サポート

(1) 尺度の項目収集

情緒的サポートは久田ら¹²⁾や岡安ら¹³⁾のSESS(The Scale of Expectancy for Social Sport)を参考に

表2 母親の衝動的感情を喚起する場面の項目

因子分析：主因子法，プロマックス法

因子名	項 目 内 容	α 係数
しつけ	3. 食事の時，食べずに遊んでいた，立ち食いする 22. レストランや電車などで，走り回って騒いだり，わけもなく大声で泣く 23. いけないことを注意すると，ふてくされる 18. テレビに気を取られて，なかなかご飯を食べない 13. わざと，床（畳）にものをこぼして，しらを切る 16. 掃除をしたばかりなのに，子どもが散らかし始めた	.786
マイペースの子	6. 物をひっくり返して騒いでいる 3. 夜尿をして布団を濡らしても，平気な顔をしている 4. 友達が，「遊ぼう」と言って誘っても，遊ぼうとしない 11. 何をしても行動がおそい 5. 自分に注意してもらいたくて，ぐずったり，困らせたり，暴言を吐く 9. さほどかゆいとは思えないが，かゆい，かゆいと言って寝てくれない	.717
親の意に反する子	6. やりたい仕事があるのに，なかなか寝てくれない 28. 寝る前，風呂に入るように言うが，いやがって逃げ回る 29. 家事をしていると，まとわりついて離れない 27. 食事を食べず，おやつばかり欲しがる 30. 物事に取り組むが，うまくいかずイライラし，親に頼ってくる 31. 泣く理由が親にわからず，子どもがひたすら泣いている 32. いくらあやしても，夜泣きがなかなかおさまらない	.798

表3 母親の衝動的行動を誘発する育児場面の項目

I-T 相関分析： α 係数=.728

1. 買い物で，おもちゃを買って欲しいとダダをこねた 2. 子どもの好きな食事を作ったのにいらないと言い食べない 3. 外出の時間がきているのに動こうとしない 4. 仲良く遊んでいたが，よその子どものおもちゃをつかんで離さない 5. やりたい仕事があるのに，寝てくれない 6. 掃除したばかりなのに，散らかしはじめた 7. 家事をしていると，まとわりついて離れない 8. いけないことを注意すると，ふてくされる 9. テレビに気を取られ，話しかけても返事がない
--

道具的サポートと思われる項目を削除し，12項目を育児する母親用に改変し，ちがう1点～きつとそう4点の4段階評定で回答を求めた。

(2) 尺度の再構成と検討（表5）

すでに尺度化されている12項目の項目得点と尺度得点との相関係数が低い項目を削除するため，I-T相関分析を行った。12項目は全て.6以上の相関を認めたので採用した。尺度の信頼性を表す α 係数は.95で，尺度の内的整合性が確認された。

6) 対象の特性

対象の特性は，年齢，職業，仕事時間，母親の交流回数，夫との会話時間を調査した。得点は，年齢が若いほど，会話時間は時間が短いほど，交流回数は回数

が多いほど点数は低くし，職業は常勤と主婦とパート・契約社員などはその他とした。

4. 調査方法と倫理的配慮

本研究の目的と内容を保育園・幼稚園の施設長に説明し，同意を得た後，研究の目的と説明が記載されている用紙，並びに調査用紙を保育従事者より園児を通じて母親に配布し，1週間の留め置きの後，園児を通じて回収を行なった。なお，研究への参加は自由意志であること，プライバシーは保護されること，個人情報報は匿名化することを説明文に入れ，研究への同意は調査用紙の回収をもって同意とみなした。

表4 育児する母親が認知し評価する夫の道具的サポート

主因子法, バリマックス回転

項 目	第1因子「子ども領域」 α 係数 = .846	第2因子「家事領域」 α 係数 = .843	共通性
3. 寝かせつけ	.721	.152	.543
5. 病気の看病	.676	.287	.540
2. 遊び相手	.670	.070	.454
4. 着替えの世話	.590	.332	.459
6. 本読み	.580	.161	.362
10. 歯みがきの世話	.537	.335	.401
1. 入浴の世話	.503	.180	.285
9. おもちゃや本の選択購入	.502	.136	.270
11. 保育園や幼稚園の行事参加	.439	.087	.201
7. あいさつなどのしつけ	.419	.230	.228
15. 洗濯物洗い, 干し, とり入れ	.161	.669	.473
17. 家の掃除 (整理整頓を含む)	.199	.652	.464
18. ゴミの分別とゴミ出し	.173	.645	.446
19. 風呂の掃除	.146	.610	.393
13. 食後の後片付け	.238	.601	.418
16. 布団の上げ下げ (ベッドの整理)	.107	.597	.367
14. 食事作り, 手伝い	.198	.498	.287
20. 家庭内外の補修・修繕	.240	.468	.277
22. 食料品や日常生活用品の購入	.321	.441	.272
2 乗和 寄与率 (%)	4.046 18.392	3.756 17.073	
累積寄与率 (%)	18.392	35.465	

表5 育児する母親が認知し評価する夫の情緒的サポート

項 目	Corrected Item- Total Correlation
1. あなたが落ち込んでいると, 元気づけてくれる	.822
2. あなたが誰かに嫌なことを言われたとき, なぐさめてくれる	.777
3. あなたに何かうれしいことが起きたとき, それを我が事のように喜んでくれる	.819
4. あなたがする話に, 興味をもって耳を傾けてくれる	.773
5. あなたが子どものことで周囲から何かを言われたと知ったら, なぐさめてくれる	.786
6. あなたが元気がないと, すぐ気づかってくれる	.743
7. あなたが不満をぶつけても, いやな顔をしないで聞いてくれる	.627
8. あなたが何かをなしとげた時, 心からおめでとうといってくれる	.772
9. 日頃からあなたの実力を評価し, 認めてくれる	.803
10. 普段からあなたの気持ちをよく理解してくれる	.796
11. あなたが人間関係で悩んでいると知ったら, いろいろと解決法をアドバイスしてくれる	.740
12. 良いところも悪いところもすべて含めて, あなたの存在を認めてくれる	.713
α 係数	.953

5. 統計処理

質問構造の確認は因子分析（主因子法, バリマックス回転）, 尺度の再構成と検討は I-T 相関, 尺度の信頼性の確認は α 係数, 平均の差は Kruskal Wallis 検定と Mann-Whitney 検定, 多重比較は Bonferroni 検定を行なった. 統計ソフトは SPSS for Windows 11.0J を用い, 推定モデルのパス解析には, Amos 5.0 を用いた.

V. 結 果

620 人に質問紙を配布し, 537 人から回収でき（回収率 86.6%）, 有効回答数 504 人分（回収率 81.3%）, 保育園 124 人, 幼稚園 380 人）を, 本研究の分析対象とした.

1. 母親の属性 (表 6)

母親の属性は表 6 に示すとおりである。

2. 母親の交流回数 (表 7)

母親の交流回数を年齢でみると、年齢が上昇するほど減少し ($p<.01$)、多重比較をすると 30 歳以下は他の年齢より交流回数が多かった ($p<.01\sim.05$)。

3. 夫との会話時間 (表 8)

夫との会話時間を年齢でみると、31～35 歳で減少し、36 歳以上で多くなる U 型を描く傾向にあり ($p<.1$)、多重比較をすると 31～35 歳は 30 歳以下より夫との会話時間は短くなっていた ($p<.05$)。

4. 夫の道具的サポート (表 9)

夫の道具的サポートを年齢でみると、「家事領域」のサポートは年齢層で違う傾向にあり、31～35 歳で減少し 36 歳以上で上昇する U 型を描く傾向にあった

($p<.1$)。多重比較では、36 歳以上は 31～35 歳より夫から家事領域のサポートを受けていた ($p<.05$)。同様に職業でみると「家事領域」のサポートは、職業間で違いがあり、常勤は専業主婦やその他より、夫から家事領域のサポートを受けていた ($p<.05$)。さらに仕事時間の平均 (6.2 時間) を基準に平均以上と平均以下にわけると、仕事時間が多い妻の方が夫から家事領域のサポートを受けていた ($p<.05$)。

5. 情緒的サポート

情緒的サポート年齢でみると、情緒的サポートは母親の年齢とは関係なかった。

6. 「夫との関係によって影響される育児中の母親の心理状態」と母親の衝動的行動のパス図 (図 3)

子どもがマイペースな場合に生じる衝動的感情は、夫との会話時間 ($\beta = -.11$, $p<.05$) からパスを受け低減されるが、説明率は 1% と少ない。子どもが親の

表 6 母親の属性

人 (%)

年齢 回答者 503 人	～30 歳	105 (20.9)	職業 回答者 320 人	専業主婦	168 (52.5)
	31～35 歳	236 (46.9)		常勤	22 (6.9)
	36 歳～	162 (32.2)		その他	130 (40.6)
有子数 回答者 320 人	1 人	135 (42.2)	仕事時間 回答者 139 人	全体平均仕事時間： 6.2 時間±2.6 時間	
	2 人以上	185 (57.8)		6.2 時間以上：54 人 (8.95±1.7 時間) 6.2 時間以下：85 人 (4.45±1.2 時間)	
交流回数 回答者 504 人	ほとんど毎日	34 (6.7)	会話時間 回答者 504 人	ほとんどなし	31 (6.2)
	2～3 日/週	66 (13.1)		30 分未満	122 (24.2)
	1 日/週	66 (13.1)		30 分～1 時間	175 (34.7)
	2～3 日/週	107 (21.2)		1 時間～2 時間	114 (22.6)
	1 日/月	100 (19.8)		2 時間以上	62 (12.3)
	ほとんどない	105 (20.8)			
	なし	26 (5.2)			

表 7 母親の交流回数 (平均値と標準偏差)

注：得点は低いほど交流が多い

年齢層	～30 歳	31～35 歳	36 歳以上	Kruskal Wallis 検定
M (SD)	3.72 (1.7)	4.20 (1.6)	4.43 (1.6)	p=.003

多重比較 (Bonferroni 法) $p<.05$: ～30 歳 < 31～35 歳, $p<.01$: ～30 歳 < 36 歳以上

表 8 夫との会話時間得点 (平均値と標準偏差)

年齢層	～30 歳	31～35 歳	36 歳以上	Kruskal Wallis 検定
M (SD)	3.38 (1.1)	3.00 (1.0)	3.09 (1.9)	p=.054

多重比較 (Bonferroni 法) $p<.05$: 31～35 歳 < ～30 歳

表9 夫の道具的サポート得点（平均値と標準偏差）

(1) 年齢層

	～30 歳	31～35 歳	36 歳以上	Kruskal Wallis 検定
子ども関連	2.63 (0.6)	2.65 (0.6)	2.63 (0.7)	ns
家事関連	2.11 (0.7)	2.04 (0.7)	2.21 (0.69)	P = .065

多重比較 (Bonferroni 法) 家事関連 $p < .05$: 31～35 歳 < 36 歳以上

(2) 職業

	専業主婦	その他	常勤	Kruskal Wallis 検定
子ども関連	2.61 (0.6)	2.57 (0.7)	2.89 (0.7)	ns
家事関連	2.05 (0.6)	2.02 (0.7)	2.59 (0.7)	P = .047

多重比較 (Bonferroni 法) 家事関連 $p < .01$: その他・専業主婦 < 常勤

(3) 母親の仕事時間

	6.2 時間以上	6.2 時間以下
子ども関連	2.72 (0.8)	2.54 (0.6)
家事関連*	2.30 (0.8)	2.04 (0.7)

Mann-Whitney 検定 * $p < .05$

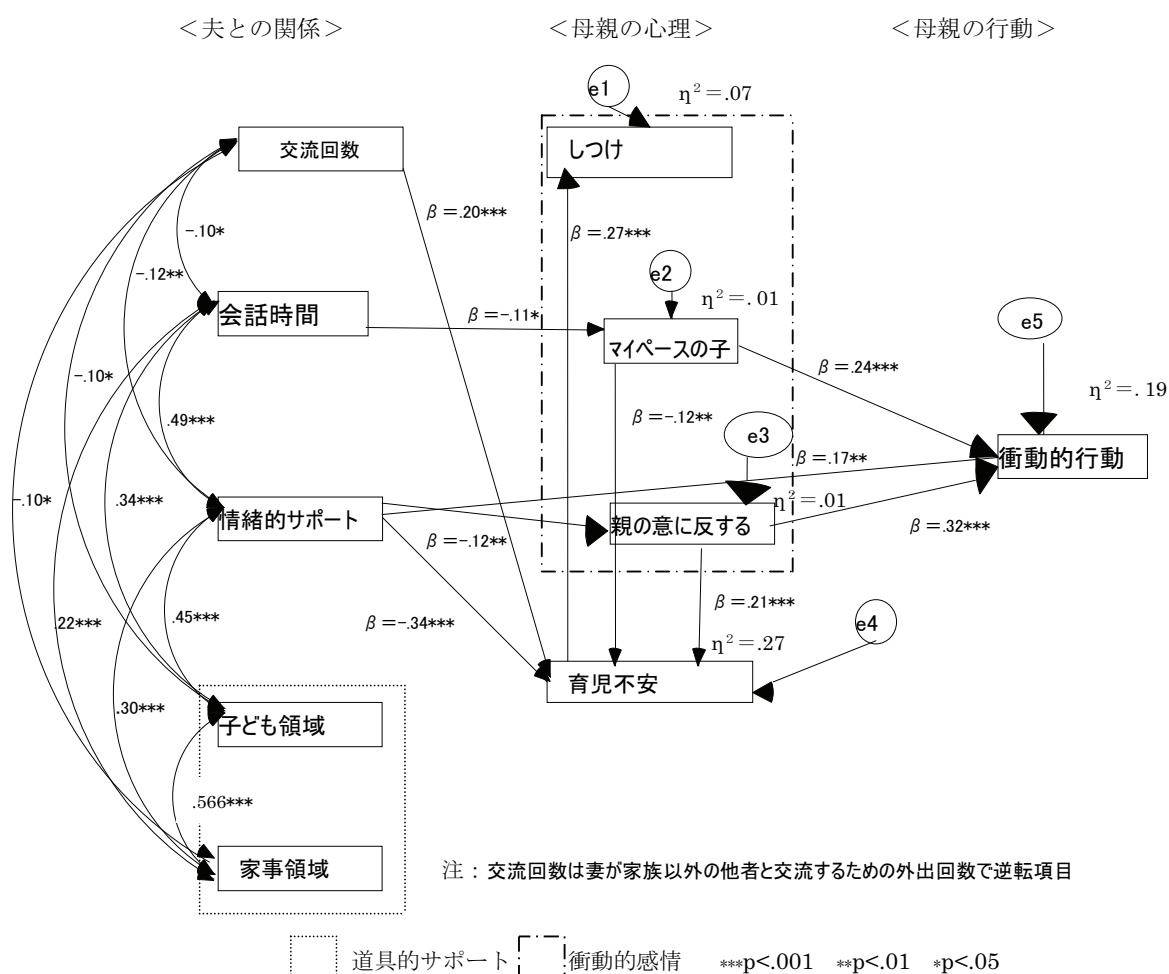


図3 「夫との関係によって影響される育児中の母親の心理状態」と衝動的行動のパス図

意に反する行動をとる場合に生じる衝動的な感情は、夫の情緒的サポートからパス ($\beta = -.12, p < .01$) を受け低減されるが、説明率は1%と少ない。衝動的な行動は、子どもがマイペースであったり ($\beta = .24, p < .001$)、親の意に反する行動をとる場合に生じる衝動的な感情 ($\beta = .32, p < .001$) からパスを受け誘発される傍ら、夫の情緒的サポート ($\beta = -.17, p < .01$) よりパスを受け阻止されている。しかし、その説明率は19%と少ない。

一方、子どもがマイペースであったり ($\beta = .12, p < .01$)、親の意に反する行動をとる場合に生じる衝動的な感情 ($\beta = .21, p < .001$) は、育児不安にパスをつなげ蓄積するが、育児不安は夫の情緒的サポート ($\beta = -.34, p < .001$) や交流回数 ($\beta = .20, p < .001$) よりパスを受け低減されている。この説明率は27%であった。また、育児不安は衝動的な行動とはパスをつなげず、誘発する素地にはなっていないが、育児ストレスとして循環し、しつけ場面で生じる衝動的な感情に影響を与えていた ($\beta = .27, p < .001$)。

夫との関係では、夫の情緒的サポートは会話時間、子ども関連や家事関連のサポートとは正相関 ($r = .30 \sim .49, p < .001$)、交流回数とは負相関した ($r = -.12, p < .01$)。会話時間は、子ども関連や家事関連サポートとは正相関 ($r = .22$ と $.34, p < .001$)、交流回数とは負相関した ($r = -.11, p < .05$)。子ども関連は家事関連のサポートとは正相関 ($r = .56, p < .001$)、交流回数はこれらと負相関した ($r = -.10, p < .05$)。つまり、妻が夫から情緒的に支えられていると思う時は、妻は夫との会話時間も長く、夫から育児や家事の支援も多く、社会的交流も頻繁なため、夫との関係は良好な状態にある。

VI. 考 察

1. 育児中の母親の心理状態（衝動的な感情と育児不安）と衝動的な行動

しつけ自体は¹⁴⁾、日常の中にあるしつけの思想やイデオロギーを通して母親が身につけた確固とした価値・態度体系であり、子どもに基本的な生活習慣を身につけさせるものである。「しつけ」場面から生じる衝動的な感情が、衝動的な行動にも繋がらなかった理由は、しつけ自体は母親自身に意味があるか否かとなっても現実性は帯びないからではないかと考える。

「マイペースの子」や「親の意に反する行動」をとる子どもに遭遇して生じた母親の衝動的な感情は、母親の衝動的な行動を誘発した。この理由は、①「子ども」は基本的には親に従いながらも遊びや活動の中で自発性を発揮して発達するものだという思いから、子ども

に不透明さや不確定さを感じ¹⁵⁾たり、②子どもの言動を「自律性」と捉え、常に子どもに受容的で寛容的であらねばならないとの考えから、母親は子育てへの不安とジレンマを抱え、子育ての曖昧さや困難さを認知し、一種のアイロニカルな状況におかれた¹⁶⁾ことが原因ではないかと考える。

2. 子育て期における妻と夫との関係

会話時間は情緒的サポートと道具的サポートとの関連が強く、情緒的サポートは道具的サポートとの関連が強かった。これらから、妻は夫との会話によって、育児の困難さや大変さを理解してもらい、夫の育児や家事の支援を受け、精神的に癒されている可能性がある。また、交流回数は情緒的サポート、夫との会話や道具的サポートとも関連していた。このことから、妻は会話で育児の困難さや大変さを夫に理解してもらい、夫から育児や家事の支援を受け、他者との交流の機会を増している可能性がある。

3. 育児場面の母親の心理状態や育児場面の衝動的な行動から夫との関係を考える

子どもに「しつけ」をする場面で生じる衝動的な感情は、夫との関係がなかった。この感情は、しつけの有効性や基準の曖昧性から母親の不安を掻き立て困惑させても¹⁷⁾、しつけ自体の特徴を考えれば夫との関係がないのは当然のことであろう。

「マイペースの子」に遭遇して生じる衝動的な感情は、夫との会話時間で低減した。また、会話時間は情緒的サポートとの関連が強かった。つまり、妻（母親）は夫との会話で子どもの気質や行動特性の負担を表出することができるので、夫との間に共感（子どもの気質や行動特性の理解）が成立し、この衝動的な感情を抑圧できた可能性がある。

「親の意に反する行動」をとる子どもに遭遇して生じた母親の衝動的な感情は、夫の情緒的サポートで低減された。この理由は次のように考える。最近の個人化志向¹⁸⁾の高い母親は、育児や家事の疲れで空虚感、圧迫拘束感を認知し²⁾、心にゆとりがないと思われる。しかし、良好な夫との関係が背後にあれば、妻（母親）は「夫が理解してくれている」との思いを抱いている可能性がある。従順でない子どもの行為を認知しても、心の冷静さを保つことができたのではないかと考える。つまり、夫が育児の困難さや大変さを理解している安心感は、妻（母親）自身の感情（育児や家事以外の自分のための価値）を、直面する子ども（子どもの価値）と相対化するような感情処理をさせないのかもしれない。

育児不安そのものは、情緒的サポートや交流回数で阻止され衝動的行動を誘発しなかった。この理由は、育児不安を育児に関係して生じた不安や悩みだけではなく、日常生活のストレス要因が累積したもの³⁾と捉えた場合、母親の心（育児不安）は他者との交流で気分転換でき、夫の情緒的サポートで冷静さを保て、余裕ができたから衝動的行動を誘発することにはならなかったと考える。

しかし、「マイペースの子」や「親の意に反する行動」をとる子どもに遭遇して生じた母親の衝動的感情は、育児不安に影響を持ち、さらに、その影響をうけた育児不安は、母親が子どもに「しつけ」をする場面で生じる衝動的感情に影響を持っていた。このことから、「マイペースの子」や「親の意に反する行動」をとる子どもに遭遇して生じる母親の衝動的感情は、わだかまり（育児不安）となって母親の心を循環し、子どもをしつける時に生じる衝動的感情を惹き起す要因（育児ストレス）になることがわかった。

妻の衝動的感情は、夫との関係で低減される効果が低い場合、衝動的行動として誘発してしまうが、夫の情緒的サポートはその後妻の衝動的行動を阻止するかのよう機能していた。このことから、夫の情緒的サポートは、育児場面の母親の心理状態に冷静さを保たせる機能があると考え、衝動的行動をとった母親達が自分の行動を反省している¹⁰⁾ことを考えると、夫の情緒的サポート（夫が育児する妻の困難さや大変さに共感する）は、妻（母親）が子どもをありのままに受け容れ、子どもが未来の社会を展望できるような母親としての自分のあり方を振り返る機会¹⁶⁾として機能するのかもしれない。衝動的感情が育児不安として蓄積し、蓄積した育児不安は「しつけ」をする時の育児ストレスとなって循環することを考えると、夫が妻を情緒的に支えることはなによりも重要であると考え、

背後に良好な夫との関係があっても、母親の心の状態は殆ど衝動的感情を抑圧できず、衝動的行動へとパスが繋がる。これは別の観点でみると、夫の情緒的サポートで統率されて冷静さを保とうとしても母親に余裕がないことを現しているような気がする。つまり、育児場面で衝動的感情が生じて衝動的行動を抑圧できるか否かは、母親自身の問題なのかもしれない。

VII. 結 語

本研究は、夫との関係が育児する母親の心理状態（衝動的感情と育児不安）にどのように影響して、母親の衝動的行動を阻止できるか明らかにし、母親を支える夫の役割を考えることであった。

その結果、子どもの「しつけ」場面で生じる母親の衝動的感情は、夫との関係によって軽減されることはなく、育児不安としても蓄積しない。一方、「マイペースの子」や、「親の意に反する行動」をとる子どもに遭遇して生じる母親の衝動的感情は、夫の情緒的サポートや夫との会話で僅かに軽減されるが、母親の心に育児不安として蓄積し、育児ストレスとして母親の心を循環する。また、母親は良好な夫との関係があると、育児不安は抑圧できるが、衝動的感情は抑圧できず、衝動的行動を誘発してしまう。このことから母親は相対的に夫との関係が良好であると、育児中の心の状態を冷静に保つことができると考える。本結果から、育児をする母親を支える夫の役割は、夫婦の会話を多く持ち、育児する妻の困難さや大変さに共感し、妻の心労を思いながら育児や家事の支援を行い、育児から解放することであると考え、

（本研究をすすめるにあたり、終始温かくご指導を頂いた聖徳大学大学院 伊藤裕子教授、調査にご協力頂いたお母様方、保育園や幼稚園の先生方にお礼申し上げます。）

文 献

- 1) 越良子，坪田雄二：母親の育児不安と父親の育児協力との関連，広島大学教育学部紀要（第1部），39：181－185，1991
- 2) 伊藤裕子，小淵暁子，駒崎由利子：幼児を持つ母親の育児ストレスと疎外感，聖徳大学研究紀要 人文学部，13：9－14，2002
- 3) 村松十和：育児場面における衝動的感情と衝動的行動尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討，岐阜医療技術短期大学紀要，19，：25－38，2003
- 4) 牧野カツ子，稲村博：『親の不安と子どもの悩み・問題行動』，原ひろ子（編），新しい父母像創造のための総合的調査研究，75－107，弘文堂，1987
- 5) 田中昭夫：保育園児の母親の育児援助に関する基礎的研究，保育学研究，32：107－115，1994
- 6) 牧野カツ子：乳幼児をもつ母親の生活と〈育児不安〉，家庭教育研究所紀要，3：34－56，1982
- 7) 数井みゆき，無藤隆，園田菜摘：子どもの発達と母子関係・夫婦関係：幼児を持つ家族について，発達心理学研究，7：31－40，1996
- 8) 青木まり，松井豊，岩男寿美子：母性意識からみた母親の特徴，心理学研究，57：207－213，1996
- 9) 柏木恵子，若松素子：「親となる」ことによる人格発達：生涯発達視点から親を研究する試み，発達心理学研究，5：

- 72-83, 1994
- 10) 大日向雅美：「最近の子どもを愛せない母親」の研究からみえてくるもの，家庭教育年報，20：20-31，1995
- 11) 大日向雅美・新道幸恵：父親の育児参加，高橋種昭編，父性の発達，家庭教育社，65-88，1996
- 12) 久田満，千田茂博，箕口雅博：学生用ソーシャル・サポート尺度作成の試み（1），日本社会心理学第30回大会発表論文，14-144，1989
- 13) 岡安孝弘，嶋田洋徳，坂野雄二：中学生におけるソーシャル・サポートの学校ストレス軽減効果，教育心理学研究，41：302-312，1993
- 14) 柴野昌山：しつけの構図—理論的枠組み—，柴野昌山編，『しつけの社会学』社会化と社会統制，世界思想社，3-32，1989
- 15) 稲垣恭子：子どもらしさの社会的構成，前掲書14)，87-104
- 16) 石戸教嗣：母親のしつけ理念とアイデンティティ，前掲書14)，106-132
- 17) 新堂粧子：社会化エージェントの悩み—母親らしさの逡巡—，前掲書14)，133-154
- 18) 目黒依子：個人化する家族，勁草書房，東京，1987

要 旨

本研究の目的は，夫との関係が育児中の母親の心理（衝動的感情と育児不安）にどのように影響して，母親の衝動的行動を阻止できるか明らかにし，母親を支える夫の役割について考えることである．対象者は研究に賛同し同意が得られた3～5歳の園児を持つ母親504人で，測定用具は研究者が作成した「衝動的感情」「衝動的行動」「情緒的サポート」「道具的サポート」，再構成した「育児不安」を用いた．

結果：「マイペースの子」に遭遇して生じる母親の衝動的感情は夫との会話によって，子どもが「親の意に反する行動」をとる場合に生じる母親の衝動的感情は夫の情緒的サポートによって，僅かに低減される．しかし，それらの衝動的感情は母親の心に育児不安として蓄積する一方で，育児場面の母親の衝動的行動を誘発していた．育児不安は良好な夫との関係で低減されるが，育児ストレスとして循環し，「しつけ」場面で生じる衝動的感情に影響を与えていた．

以上から，育児中の母親は相対的に夫との関係が良好であれば，心の状態を冷静に保つことができ、母親の衝動的感情や衝動的行動を僅かに阻止できる可能性がある．このことから育児をする母親を支える夫の役割は，夫婦の会話を多く持ち，育児する妻の困難さや大変さに共感し，妻の心労を思いながら育児や家事の支援を行い，育児から解放することであると考えられる．

キーワード：衝動的感情，衝動的行動，育児不安，夫との関係